リヅム遊びについて

みごり會音樂研究部

弘田龍太郎

リヅム遊びについてはAK、BK共に非常な努力をはらつて下さつてゐることは我々幼兒の音樂教育研究に携つてゐる者にとつて誠に有難いことであると思ふ。そこで實際に幼兒の保育にあたつてゐる者達のこのリズム遊びの取扱ひについていろ〳〵研究した結果をこれからだん〴〵と報告することにする。

勿論これらはいづれも、一案であつてまだ他に無數の良い案があるかと思ふが、この發表が刺戟となつて遙かに優れた案を御提示下さらば誠にありがたいことだと思ふ。幼兒の音樂教育のために、この幼兒教育を通してどし〴〵御發表下さるやうお願ひする。（一六、一一、一〇）

——◇——

（童話を用ひて）

或るお池の中で蛙の卵からお玉杓子の赤ちやんが生れました。お母さんは大きな蛙さんです。お玉杓子は生れるこ直ぐに、お池の中をユラ〳〵こ泳ぎ廻つて、直きにお池の中の金魚の金子さんや目高のメヽ子さんや、それから鮒のフナ男さんなんかこお友達になりました。その中にお玉杓子は段々こ大きくなつて、お母さんこ同じ樣な形の蛙の子になりました。

まだ〴〵小さな青蛙ですけれごお母さん蛙から、「ピヨン太郎」こ云ふ名前を付けて戴きました。もうお玉杓子ではありませんから、お池の中でばかり泳いで居なくてもいゝのです。

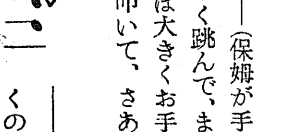
「明日はお池の外に出て跳ぶお稽古をしませうね」こお母

さん蛙に云はれてピョン太郎さんは大喜びです。その次の朝は何時もよりずつと早く起きて、「ねえ、お母さん、早く跳ぶ事を教へてよー」とせがみました。

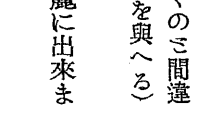
朝御飯を食べると、さあ跳ぶお稽古です。

お池の外に出てお母さん蛙が跳んで見せました。ピョン太郎さんは始めて跳ぶのですから一番やさしい跳び方を習ひました。

一つ大きく跳んで小さく跳んで、——(保姆が手を拍ちながら)——ピョンと大きく跳んで小さく跳んで、またピョンと跳んで小さく跳んで、——跳ぶ時は大きくお手々を叩いて、小さく跳ぶ時は小さくお手々を叩いて、さあ、みんなで一緒にやつて見ませう。——



——大きく叩くのと小さく叩くのと間違へない樣にお手々を叩いて、(拍手しながら注意を與へる)——



——さあ、綺麗に出來ましたね。——

それからピョン太郎さんは、毎日お池の外で跳ぶお稽古をしましたので直きに上手に跳べる樣になりました。

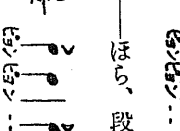
その中に近くの原つぱで蛙の運動會がある事になりました。ピョン太郎さんも、お母さん蛙に連れられて、赤い帽子を被つて運動會に行きました。蛙の綱引きや、蛙の幼稚園のお遊戯や色んな事があつてからいよ〳〵駈けつこです。蛙の子が澤山並んで立つてゐます。赤い帽子のピョン太郎ちやんも立つてゐます。

「ヨーイ、ドン」

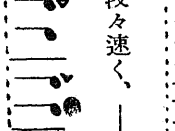
蛙の子が皆跳び出しましたよ。

「ピョンちやん、しつかりー」お母さん蛙も一生けんめい應援してゐます。ピョンちやんも一生けんめい跳んでゐます。

——さあ、みんなで蛙の跳ぶ樣にお手々を叩きませう。



——ほら、段々速く、——

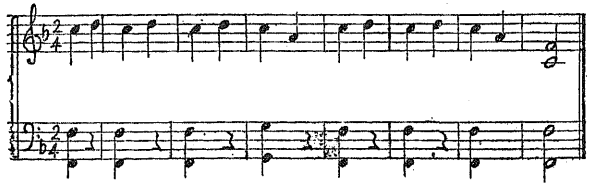


——隨分速く蛙びましたね。もう止めませう。——

ピョン太郎さんは、遂に一等賞になつて御褒美を澤山戴きましたとサ。

＊　＊　＊　＊

以上の話をした後で、「ピョン太郎さんの樣に跳びませう。」と云つて、遊戯室に行くか、又は廣い部屋ならば、その儘、幼兒を腰かけさせて、保姆が指導しながら幼兒に、二拍子の强弱の拍子を叩かせる。そして、一同のとる拍子で一人づゝ、



蛙のつもりで、立つた儘、兩足を揃へて、一拍目の强い拍子の時に大きく跳んで前進し、二拍目の時には其の場で小さく跳ぶ方法で跳びながら部屋を一巡させる。この場合手は自由の位置とする。一同へは音がバラ〳〵にならぬ樣に、又强弱をはつきりさせる事を注意する。

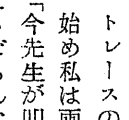
皆が一巡したら保姆が强弱のはつきりした伴奏を彈いて一同を思ひ思ひの方向に蛙のつもりで跳ばせる。或は男の子と女の子を別々にして、男の子の跳ぶ時は女の子が、女の子の時には男の子が拍子を取るのもよいと思ふ。

（上に掲げたのは伴奏の一例であるが、もつと適當なものがあつたらそれを用ひて戴きたいと思ひます。）

（山崎貴代子）

——◇——

幼兒に試みました私の一案を次に御報告致します。年少組をいつもの話し合ひの時の樣に圓く椅子を竝べて腰かけさせ、トレースの長方形の積木を二個づゝ與へ前に置かせます。始め私は兩手に一個づゝ持ち「今先生が叩く音は何の音かあてゝごらんなさい」と申し＊



＊と强の時は平に打ち弱の時には一方を平に他を斜に打ち今のは何の音ですかと尋ねました。幼兒は考へる間もない程早く一、二、一、二と云ひましたのでそれは何の音かと聞きましたら、或兒は體操と云ひ、又歩く音又は時計の音、或は汽車の音なぞ申しました。それでは皆が一緒に叩きませうと前に置いてある積木を兩手に一個づゝ持たせ私と同じやうにとて、一、二、一、二とかけごゑをし乍ら强弱をつけて叩かせました。皆大喜びでした。

次は體操、それは積木を前に置かせ兩手を前に出し胸に取り一、二、一、二と申し乍ら私丈積木を叩き前に出す時を强に胸に取る時を弱に致しました。次には腰をかけたまま足丈で前のリズムをたゝかせました。

次には積木を取り上げ時計の音をちくたく、ちくたくと云ひ乍ら打たせ、又次は兩手を横にかゝへ汽車の走る積りでがつたん、ごつとんと云ひ乍ら手を動かさせ少し馴れた時にそのまゝ歩かせました。始めは少し無理でしたが間もなく馴れ段々上手になり普通列車になり早くして急行列車になつたり、このごろは自由遊びの時庭の朝顔のトンネルの中に入り又は滑り臺、枠上りの下をくぐり乍ら汽車遊を致します。

口に ♪♪♪♪♪♪♪♪ シュッシュ、ポッポ、なぞ申し乍らさても愉快そうでございます。

年長組は矢張り始めは年少組の樣に圓になり、積木で*♪♪♪♪♪♪♪♪*と三拍子を打たせましたら直ぐに正しく打ちました。「港」を彈きますと强は平に弱は斜に打ち正しく打ちます、又强を强く踏みしめて歩かせ、又兩手を使ひ乍ら歩かせて居りましたが此の頃は或は積木或はタンバリンを持たせ、歩き乍ら手も共によく揃つて打つやうになりました。非常に樂しさうに熱心に致し都合で偶に朝致しませんと催促してしませうと申す樣になり、私共も何とかしてよく指導して遣り度相談し研究致し合つて居ります。

（八木澤しげ）

——◇——

リズム遊び「雨だれさん」

しとゝ〳〵と雨が降る日、保育室の中で靜かに切り紙等させてゐると、ポッツン、ポッツンと落ちて來る雨だれの音がリズミカルに可愛らしく聞えて來る。こんな日に幼兒に「雨だれさん」のリズム遊びをさせてみたいと思ふ。

次のやうなものも一方法であるかと思ふ。

形體　お話合ひの時と同じ樣に指導者と幼兒向き合つて腰掛ける。

リズム ♪♪♪♪♪♪♪♪

指導法　お話から自然にリズム遊びに導いて行く。

話「今日は雨が隨分よく降りますね。滑り臺にもブランコにもお砂場にもピチャ〳〵降つてるでせうね。あら雨だれの音が聞えますよ。」

幼兒に靜かに聞かせる。

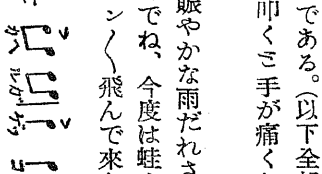
「ポッツン、ポッツン聞えますね？雨だれポッツン、雨だれポッツン。」　♪♪♪♪♪♪♪♪ ポッツン

こうして始め出し、前記のリズムで口に合はせて自然に手を叩く。

「さあ皆さんも雨だれさんよ。」

と云ひながら幼兒にも一緒にさせる。强部弱部は大きくつける。幼兒にも自然に强弱がつけられる樣に指導者は聲も拍手もはつきりさせるのである。(以下全部この樣に强弱をつけさす)あまり長い間叩くと手が痛くなるから次の樣に止めさせる。

「一寸止めて頂戴。隨分賑やかな雨だれさんなのでね、今度は蛙さんが僕もお仲間入りしたいと云つてピョン〳〵飛んで來ました。ほら負けない樣なお聲で鳴き出しましたよ。ゲッコ、ゲッコ、蛙がゲッコ。」



と云ひながら又前の樣に口に合はせて拍手する。

「今度は皆さんも蛙さんですよ。大きなお聲で鳴きませうね」

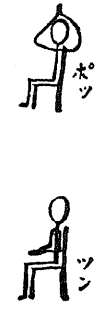
と一緒に繰り返へさす。そして又適當な時に止めさせる。

「まあ元氣な蛙さんです事。じや雨だれさんと蛙さんと仲よく一緒にしませうね。アマダレポッツン、カヘルガゲッコ、アマダレポッツン、カヘルガゲッコ。」

と交互に前と同じ樣にする。幼兒はこの邊まで來ると默つてゐても一緒にやり出す。皆がそろつて上手になつた頃又手を置かせる。

「さあ又一寸お休みよ。今度は雨だれさんは上から落ちて來る樣にこうしませう。」

と「雨だれ」は前と同じに拍手して、「ポッツン」は上から落ちて來る樣子をしてみせる。



拍手二つ。

「それから蛙さんはお顏を前へ出して鳴きませう。」

と「蛙が」は前と同じ「ゲッコ」は顏を前へ出して兩手で膝を二度叩いて蛙の樣子をする。

これを最後に繰り返へさせて

「今日の雨だれさんのお遊びはこれだけにしませう。」

と終りにするのである。尙ほこれは年長組である。

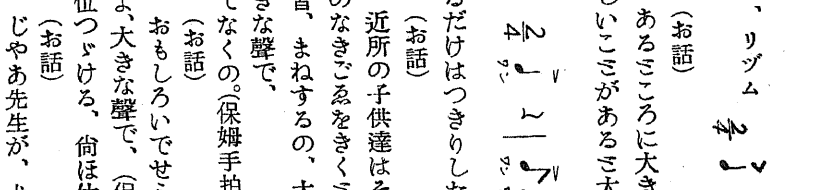
(橋本せい)

——◇——

(年少組用又は一年保育兒)

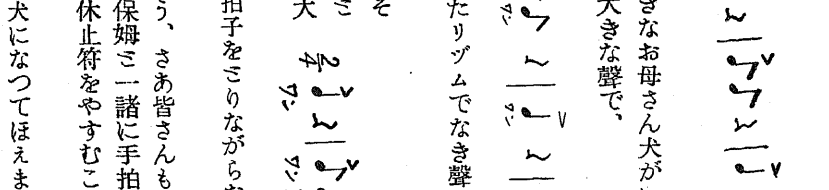
一、材料　小犬のはなし

一、リヅム



（お話）

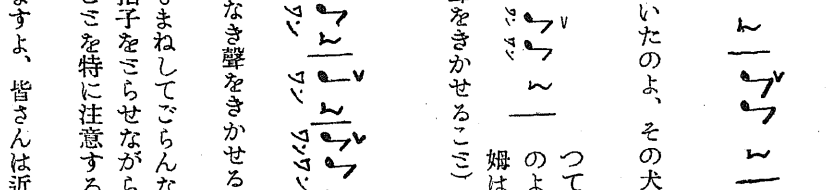
あるところに大きなお母さん犬がいたのよ、その犬は嬉しいことがあると大きな聲で、



つてなくのよ。（保姆は出來るだけはつきりしたリヅムでなき聲をきかせること）

（お話）

近所の子供達はそのなきごゑをきくと皆、まねするの、大



きな聲で、てなくの。（保姆手拍子をとりながらなき聲をきかせること）

（お話）

おもしろいでせう、さあ皆さんもまねしてごらんなさいよ、大きな聲で、（保姆と一諸に手拍子をとらせながら三回位つゞける、尙ほ休止符をやすむことを特に注意する）

（お話）

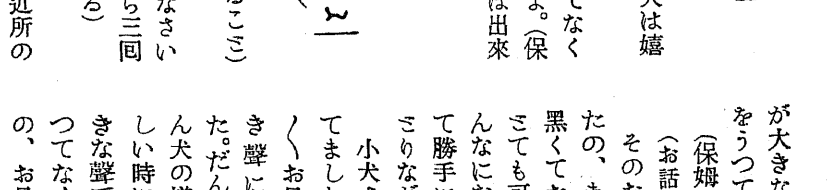
じやあ先生が、犬になつてほえますよ、皆さんは近所の子供達ね、さあお手々を打つてはやして頂戴、お母さん犬が大きな聲でほえますよ。お母さん犬のなき聲と同じに手をうつてね、

（保姆ほえる、幼兒手拍子、何度もくりかへす）

（お話）

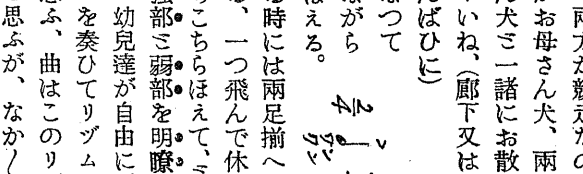
そのお母さん犬に三匹の可愛いゝ小犬ちやんが生れましたの、まつ白い毛のはえた白ちやん茶色と黑のぶち犬、眞黑くてお鼻の頭がちよつぴり白くなつてゐる黑ちやん、皆さても可愛いゝ小犬なのよ、お母さん犬は大喜びです。ごんなにないたでせうね。（幼兒に先刻のリヅムを思ひ出させて勝手にほえさせる。リヅムがはつきりするまで手拍子をとりながらほえさせること）

小犬さん達は始めのうちは小さな聲で時々クン〳〵云つてましたけど、だん〳〵お母さん犬のなき聲にして來ました。だん〳〵大きな聲でなくやうになると、やつぱりお母さん犬の樣に嬉しい時には大きな聲でつてなくの、お母さん犬も



つて、両方が競走なのよ。さあ今度はみなさんが小犬さん先生がお母さん犬、両方でほえつこしませうよ。そしてお母さん犬と一諸にお散歩に行きませう、みんなついていらつしやいね、(廊下又は遊戯場等へ出てみんなが犬になる、四つんばひに)

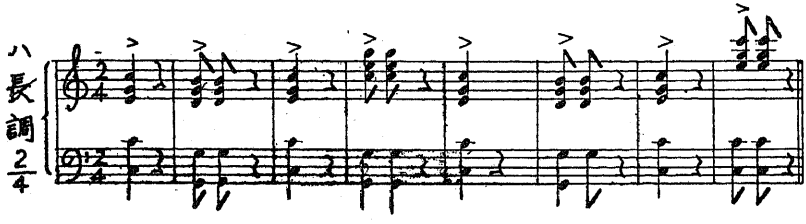
犬になつて
歩きながら
時々ほえる。



ほえる時には両足揃へて犬の立つた形をとり両足一諸にとばせる、一つ飛んで休止は休み、次に二つつゞけてとぶ。あちらこちらほえて、とばせる、(とぶ時もほえる時もリヅムの強部と弱部を明瞭に)

附、幼兒達が自由に飛ばれるやうになつたら保姆がピアノを奏ひてリヅムをはつきりさせてやることもよいと思ふ、曲はこのリヅムの入つたものが選ばれゝば幸ひと思ふが、なか〳〵見付からぬので下記の如く和音を組合はせて出來るだけ強部と弱部をはつきり奏ひてやるのがよいと思ふ。

(山村きよ)



自作貼紙かるた

世の中にはいろ〳〵熱心な方がありますが、先き頃、京都の保姆さんをして居られる辻智惠さんから、御自作の貼紙かるたを寄贈して來られました。御手紙によりますと毎年新工夫を凝らされて、幼兒自身に自作せしめられる由、その御熱心と出來ばえのお見事さに敬服いたしました。

(編輯係り)